

平成25年度 学校評価計画

徳島県立ひのみね支援学校

徳島県教育基本目標	『とくしまの教育力を結集し、未来を創造する、たくましい人づくり』 ～県民とともに考え、ともに育むオンリーワン教育の実現～	
学校経営基本方針	「三つの保障」「二つの指導」「一つの約束」 三つの保障：「安全の保障」、「学習の保障」、「人権の保障」 二つの指導：「規律と礼節」、「人間性」と「専門性」の融合 一つの約束：「地域や保護者に開かれた学校」	
本校の教育目標	教育基本法に基づき、児童生徒一人ひとりの個性と人権を尊重し、自立と共生に向けて、自己実現に努める心豊かな人間を育成する。	
本年度の重点目標	1 安全の保障 (1) 防災教育と防災管理の充実と推進 (2) 防災に係る関係機関等との連携と協力体制の推進 (3) ユニバーサルで多重感覚を促す教育環境の充実と推進 2 学習の保障 (1) 外部の専門家を導入した授業改善にむけた取組を検証 ～「自立活動」に係る実態把握と指導・評価について～ (2) 一人ひとりのキャリア発達を促す教育プログラムの実践 (3) 感動と癒しの体験につながる授業づくり 3 人権の保障 (1) ICFの理念に基づく障がい児の理解と啓発を推進 (2) 交流及び共同学習の充実 (3) 障がい児・者等のQOLの向上に向けた支援	
	年度末総合評価	次年度への課題

重点目標 1 安全の保障に向けて					
自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	活動計画と評価指標	評 価		学校関係者の意見
				総合評価	
防災教育・防災管理の充実と、関係機関との連携・協力体制の推進が必要である。	(全校レベル) ① 防災教育の充実と防災管理の点検と見直し。 [学校生活部] ② 防災に係る関係機関との連携と協力体制の推進。 [学校生活部]	<活動計画> ① 5月・10月・2月に地震・津波想定避難訓練を実施し、8月に放水訓練、10月に火災想定避難訓練を実施する。また、各学部の学級・ホームルームで避難訓練の事前事後の学習や、児童生徒の実態に応じた防災学習を自立活動や理科・社会等の時間に実施する。火元責任者・防火管理責任者による各教室・設備等の点検とチェックを実施する。 ② 5月・9月・1月にひのみね学校防災地域連携協議会を実施し、本校との連携・協力体制を推進するとともに、その後の避難訓練や防災学習を充実させる。防災キャンプを本校で実施し、地域との協力体制を強固にする。	<活動計画の実施状況> <評価指標の達成度>	<評定>	
				----- <所見>	
		<評価指標> ① 防災避難訓練（地震・津波・火災）を学期に1回以上実施するとともに、各学部・学級・ホームルームで年間3回以上防災に関する学習を行う。火元責任者による各教室の点検とチェックを毎月実施する。防災担当者による施設・設備等の点検を学期に1回実施する。 ② ひのみね学校防災地域連			

<p>外部の専門家や協働による授業改善が不十分である。</p>	<p>① 本校におけるキャリア教育のあり方を検討する。 [支援開発部]</p>	<p>携協議会を学期に1回実施する。防災キャンプ(一泊)を夏季休業中に本校で実施する。</p> <p><活動計画> ① 児童生徒のキャリア教育の基本的な考え方と教育類型別のキャリア教育プログラムを外部専門家等の協力も得ながら検討し、学習や生活指導等に利用できるものを教育課程類型別に作成することで、キャリア教育的内容を視点に考えた授業改善を目指す。</p> <p><評価指標> ① 教育課程類型別におけるキャリア教育支援プログラムから、個々の児童生徒の学校生活や卒業後の生活に向けた授業で活用できた評価をアンケート等を通じて80.0%以上得る。</p>				
<p>多重感覚を促す教育環境への取り組みが不十分である。</p>	<p>多重感覚を促す教育環境の充実。 [中学部]</p>	<p><活動計画> ①教室移動、活動の準備と後片付けを学習活動に位置づけ、知覚刺激を組み合わせ、周囲の状況をわかりやすく伝える活動に取り組む。</p> <p><評価指標> ①「多重感覚を促す環境を整えることで、生徒が安心感を持ち、予想される変化にむけて自らの態勢を整えることができるようになった」という評価をアンケートにより80.0%得る。</p>				

重点目標 2 学習の保障に向けて					
自己評価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	活動計画と評価指標	評価		学校関係者の意見
				総合評価	
児童生徒の個々のニーズに応じた、自立活動の指導の妥当性の検証が不十分である。	外部専門家を導入した自立活動の授業改善に向けた取組を検証する。 〔自立活動部〕 児童の課題やニーズに応じた個別の指導計画を作成する。 〔小学部〕	<p><活動計画></p> <p>①外部専門家（PT・ST）による、自立活動の授業に対するコンサルテーションを活用するために、コンサルテーション前に各学級・HRで授業検討会を行い、質問内容を整理する。また、コンサルテーション後にグループで報告会を行い、共通理解を深める。コンサルテーションを活用した改善授業を行う。</p> <p>②実態把握から個々の課題やニーズを明確にし、ケース会で検討する。</p> <p><評価指標></p> <p>①-1 外部専門家の指導助言を活用して授業改善に取り組み、アンケートにより児童生徒の変容が見られたという教員評価を80%以上得る。</p> <p>①-2 アンケートにより、各学級・HRでの授業改善の取組により、指導方法が改善され、評価が明確になったという教員評価を80%以上得る。</p> <p>②-1 Life の研修を行い、実態把握をグループで行う。</p> <p>②-2 ケース会での検討により、より児童の実態やニーズに応じた目標がたてられたという教員評価をアンケートにより80%以上得る。</p>	<活動計画の実施状況>	<評定>	今後の改善方策
			<評価指標の達成度>	<所見>	

キャリア教育の十分な実践がある。

職業的自立をめざす生徒のキャリア教育プログラムの実践
[中・高等部]

<活動計画>

- ①個別の指導計画作成において、キャリア教育の視点を全授業で取り組めるよう位置づけ、ケース会をもつ。
- ②高等部段階で、職業的自立につながる資格取得に向けて、具体的な指導計画を立てる。
- ③働くことに関する体験授業や施設見学等を実施する。
(中学部)
- ④ PATH を活用して将来に向けてのステップを具体化する。
- ⑤-1 社会生活能力検査や作業能力検査を実施する。
- ⑤-2 定期的に学習の記録をとり、自己評価をする機会を設ける。
- ⑥進路に向けて関係者の共通理解を図るために、定期的に関係者でケース会を行う。

<評価指標>

- ①-1 個別の指導計画の年間目標を 80.0 %以上達成する。
- ①-2 ケース会を年 3 回以上実施する。
- ② 中学部 1 年で、2 つの検定を受検する。
- ③ 体験授業、施設見学を年 3 回以上実施する。
(中学部)
- ④ 将来設計図の初期のステップ (1 年間) の目標を 70 %以上達成する。
- ⑤ 各検査の評価や 1 学期始めの記録が 5 %以上向上する。
- ⑥ 学校関係者や関係機関を交えたケース会を月 1 回以上実施する (学校関係者のみの会も含む) (高等部)

<活動計画>

<p>障がいや病気のため、生活経験が少ない。</p>	<p>感動と癒しの体験につながる授業づくり [高等部]</p>	<p>①校外に出かけて自然や地域社会とかかわる体験学習の授業を計画的に実施する。 ②音楽の得意な教員等がチームを作り、様々な楽器の生演奏や歌声を取り入れたミニコンサートを行う。</p> <p><評価指標> ①昨年度より校外学習の回数を30%以上増やす。 ②ミニコンサートを年間2回以上実施する。</p>				
----------------------------	-------------------------------------	---	--	--	--	--

重点目標 3 人権の保障に向けて					
自己評価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	活動計画と評価指標	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
学校全体としてICFの考え方を活用するまでに至っていない。	<p>① LIFE を用いて、全児童生徒の実態を経年に渡り把握する方法を築く。 [教育推進部]</p> <p>② LIFE の結果を自立活動の指導に生かす。 [教育推進部]</p> <p>※ LIFE とは、重症心身障がい児(者)のための生活機能評価表。</p>	<p><活動計画> ① LIFE の研修会を実施し、全児童生徒について複数の教員で LIFE を実施する。</p> <p>② 自立活動指導内容表を用いて、LIFE の結果から一人一人に必要な自立活動の指導内容を明らかにする。</p> <p><評価指標> 全職員のアンケートから「LIFE の評価方法と毎年度の実施方法について理解できた」、「自立活動の指導内容を考える上で役だった」という評価を 80 % 以上得る。</p>	<p><活動計画の実施状況></p> <p>総合評価</p> <p><評定></p> <p>-----</p> <p><所見></p>		
			<p><評価指標の達成度></p>		
センター的機能の一環としての積極的な地域への貢献及び交流が必要である。	乳児院等へ訪問し、交流をとおり、地域の方のQOLの向上につながる取組を実施する。 [支援開発部]	<p><活動計画> ①乳児院等への訪問メンバーを募る。訪問メンバー数に応じて、チームを編成し、各学期に1回は乳児院への訪問を実施する。</p> <p><評価指標> ①乳児院の職員対象にアンケートを実施し、交流についての感想が「満足である」「やや満足である」が80%を上回る。</p>			

<p>にる社を支 え互人し理 お互いを解 し、支えあ ことの大う を学ぶ必 ある。</p>	<p>交流及び共同学 習を充実させる ための取組を推 進 [小・高等部]</p>	<p><活動計画> ①啓発教材「ひのみねっこ くらぶ」の内容を検討し、 次年度改訂に向け準備する。 啓発の方法についても検討 する。(小学部) ②-1 本校の生徒の理解を深 めるために交流相手校の生 徒に対して障がいの重い生 徒とのコミュニケーション のとり方や安全な車椅子の 介助方法について事前打合 せをする。 ②-2 交流活動終了後にアン ケートをとり、次回の活動 を改善する。(高等部)</p> <p><評価指標> ①-1 内容を検討し、改訂項 目を3項目設定する。3項 目の具体的改訂内容にそつ て次年度の計画を立てる。 ①-2 よりよい啓発の方法を 交流相手校へのアンケート から探り、次年度の活動計 画に具体化する。 (小学部) ②交流各校の参加生徒にア ンケートをとり、「充実した 交流活動ができた」という 回答を80%以上得る。 (高等部)</p>				
---	--	---	--	--	--	--